平成30年度　第１回帯広市緑化審議会　議事録（概要）

１　日　　時　　平成30年６月５日（火）10：00～11：15

２　場　　所　　帯広市役所水道棟３階　大会議室

３　出席委員　　天内委員、川島委員、坂本委員、澁谷委員、辻委員、中田委員、細川委員、
松田（弥）委員、松田（信）委員、三日市委員、目黒委員、和田委員　12名
（欠席：伊藤委員、鳥本委員、藤本委員　３名）

４　事 務 局　　泉部長、山名調整監、三井課長、中村公園管理担当課長、
金山公園管理担当課長補佐、大橋みどりと花の係長、中村管理係長、
國枝整備係長、小丹枝主任、伊藤主任補、中山係員

５　議事概要

（1）報告事項

・帯広市緑化審議会の概要について

（事務局より概要説明）

特になし

・緑の基本計画について

（事務局より概要説明）

委　員　緑の基本計画の目標水準について、平成29年度末ではどのような状態になっているのか。

事務局　四つの目標があり、緑被率については平成 13 年度から計測を行っていないが、今年度調査予定となっている。

緑地率は１１．１％、一人当たりの公園面積は４６．４㎡、植樹の本数は、１１．５万本となっている。

委　員　緑被率については中間では一回もやっていないということか。

事務局　今まで中間では計測していない。今年度調査する予定になっている。

委員長　目標水準が全部、都市計画区域内だけとなっているため、全市としてはどの程度緑があるのかを多分調査していないと思う。田園都市と謳うのであれば調査するべきではないかと思うので、今後の調査・計画の中で検討してもらいたい。

事務局　検討させていただく。

委　員　緑被率と緑視率とはどういう意味なのか、説明してもらいたい。

事務局　「緑被率」は、平面的な緑量を把握する場合に用いられる尺度であり、イメージとしては空から見た中での緑の割合のことである。計測方法は、航空写真や衛星写真を撮り、その中で緑地、街路樹、公園など、緑に関する部分の割合を出す。

「緑視率」は自然に、ある地点から立体的に見た場合の緑の割合のことをである。計測方法は、交差点等で四方の写真を撮り、その立っている場所から見える樹木等の緑の割合を出す。

今年度は、衛星写真を利用した緑被率調査と、実際に市内の数十点を四方から写真撮影する緑視率調査を平成 31 年 1 月末まで行う予定であり、まとまったものを翌年度の検証に利用する。

委　員　緑被率や緑視率は公共部分だけが対象となっているのか。

事務局　都市計画区域内すべてを調査するため、公共だけには限らず、民有地も該当する。

委　員　最近町内会を見渡すと、木が生えているのが自分の家くらいしかなくなってしまい、落ち葉が邪魔であるなど、だんだん庭に木を植えない風潮になってきたように感じている。

緑被率や緑視率の調査がどのような結論になるのか分からないが、目標達成が難しい状況であった場合、どのような対策を考えているのか。

事務局　非常に難しい課題だと感じている。これまでの緑の基本計画の目標水準は、緑で覆われている面積など、定量的なものであった。これには民有地の緑化の部分も該当している。

一方で、少子高齢化により、緑化活動や維持管理が難しくなっていることとの折り合いをどうつけるかといったことも考えていかなければならない。

そうした状況の中で、今までのようにただ緑の量を追っていくのではなく、「量より質」といった形で、先ほどの緑視率のような、実際に目で見たときに緑豊かに見えるようなまちづくりをしていく必要がある。

そのためには、街路樹や公園などの公共の部分だけではなく、民有地の緑化についても非常に大切になっていく。そうしたことも踏まえて、行政側からの一方通行ではなく、市民や緑化審議会委員の方の意見を伺いながら、新しい緑の基本計画を策定していきたい。

委員長　この問題はなかなか難しい問題で、木を生やせば虫がでるとか、葉っぱがでるとか、今の運動会の花火のように、なかなか市民と行政の意識が合わず、意見交換も出来ていないというのが現実だと思う。

そうしたことを踏まえて、来年度の緑の基本計画について考えていくことが緑化審議会の課題である。

・帯広市の緑化に関する予算、決算ついて

（事務局より概要説明）

委　員　帯広の森基金について、平成 29 年度の事業報告の取り崩し額がおよそ２千万円となっているが、主な事業はどういったもので、基金の残額はいくらであるのか。

事務局　平成 29 年度の帯広の森基金の取り崩し額は 20,699 千円。事業としては、慶事記念樹の贈呈費に約 88 万円、緑化重点地区の支援事業に約 42 万円、花壇コンクールに約 193 万円、フラワー通り整備に約 591 万円、河川の桜並木の整備に約 313 万円、帯広の森利活用の促進にかかる経費に約 19 万円、帯広の森育成に関わる費用に約 212 万円、十勝飛行場周辺の帯広の森づくり整備にかかる経費に約 241 万円、中央公園の再整備にかかる経費に約 368 万円となっている。

平成 29 年度末取崩し後の基金残高は約 1 億 3000 万円となっている。

委　員　帯広の森基金という名称になっているが、実際には 500 万円くらいしか帯広の森自体には活用していないと。であれば、帯広の森基金という名称ではなく、市民の方に「この基金はこういう目的で使っている」ということが分かるような名称にはできないのか。検討ができるのであればお願いしたい。

委員長　おそらくこの基金は、設立当初は帯広の森に特化した形で、用地買収などのために設置したものだと思う。ただ、現在では市全体の緑に関することに活用しているのというのであれば、例えば「帯広の緑の基金」のような全てを網羅するような名称に、次期の緑の基本計画の中で考えればいいと思う。

事務局　「帯広の森基金」というのは、帯広の森という事業を推進するために、「都市開発基金」の中から独立して設立されたものである。ただ昨今では、本市の緑化事業全体に活用され、桜の植栽に関する事業に特定した形で寄附いただいたものも含まれている。

そうしたことも踏まえて、今後、分かりやすい名称等も考えていく必要もあると感じるため、今後緑化審議会の中で議論させていただきたい。

事務局　「公園整備事業」について、平成 29 年度の決算額が約 2 億 7400 万円で平成 30 年度の事業計画が約 1 億 5700 万になっている。およそ 1 億 2000 万くらい少なくなっているのは、おそらく、十勝川水系河川緑地の災害復旧工事が要因だと感じるが、「災害復旧事業」でも十勝川水系河川緑地の復旧を行っているので、この２つの事業による十勝川水系河川緑地の復旧は違うものなのか。

委　員　まず、「災害復旧事業」として約 8 億 1900 万円となっているが、この事業の中身は、国土交通省から災害の補助を受けて行ったものである。この事業のうち、国からは８０％の補助を受けている。整備の内容は芝生の復旧や、穴が空いた箇所の埋め立てや、河川上流から流れてきた流木の処理など、基盤整備に充てる費用の額となっている。それに対して、「公園整備事業」としての十勝川水系河川緑地災害復旧工事は、主に上物の整備となっており、野球場のバックネットやパ

ークゴルフ場のピン、札内川のソフトボール場などの復旧を行った。

「公園整備事業」は平成29年度と平成30年度を比較すると金額が少なくなっているが、これは約1億7000万円かかった十勝川水系河川緑地災害復旧工事が平成30年度はトイレ更新工事を残して終了していることが主な要因となっている。

委　員　花いっぱい推進事業の中で、オープンガーデンとモデルガーデン、フラワー通りはそれぞれ何件あるのか。

事務局　オープンガーデンについては、帯広市が支援している「とかちオープンガーデンマップ」というものがあり、これは十勝管内で自宅の庭を一般の方に公開している方を紹介するもので、約２０件のガーデンが紹介されている。

モデルガーデンは、帯広市の緑ヶ丘公園内にあるガーデンで、市民の庭造りの参考にしてもらえるようなガーデンを造成し、管理・運営を市民協働で行っている。年に１０回程、市民の方が参加し、ワークショップなどを通じて枯れた花摘みや補植などを手伝ってもらっている。

フラワー通りについては、19条通り、柏林台通り、明星通り、南7線、電信通り、西3条通り、フシコベツ花の小径の計７路線となっている。整備路線の延長は約５．９㎞で、３９団体の町内会及び各活動団体の方々に植栽から枯株撤去までの管理をお願いし、一部については委託事業で行っている。花苗の株数は約4万6000株で、1,750人の市民の協力により維持管理をしていただいている。

委　員　十勝のオープンガーデンはまだあまり知られていないが、恵庭等には本当に素晴らしいオープンガーデンがある。それは市の協力もあってのものであると聞いているので、十勝のオープンガーデンについてもぜひもっと協力をお願いしたい。

モデルガーデンについては、やはり一ヶ月に一回程度の管理では追いつかないので。もっとボランティアが集まるようにしていきたい。なかなか市民の方に知られていないのが残念なので、造成から４年目になり、大変充実してきて良くなってきたので、ぜひ家族で遊びに来れるようなガーデンにしていきたい。